

2025年度 フラワーブラボーコンクール 学校花壇講習会資料

中日新聞社 事業開発部
(フラワー・ブラボー・コンクール事務局)

花壇を作る六つのポイント

①校内の景観に配慮(人の目に触れる場所)

学校の敷地面積やレイアウト、花壇の場所により制約があると思いますが、先生方や児童生徒の皆さんの目に触れる場所に、花壇があるのが好ましいと思います。登下校時の通り道のような場所が望ましく、教室から見えることもポイントではないでしょうか。さらに、地域に住む人たちにもFBCの花壇を知ってもらい、学校のシンボリック的存在として活かすことができれば申し分ありません。

②作業が容易(面積、デザイン、管理・維持)

花壇の形や面積は様々と思いますが、大きすぎると作業が行き届かないことが多々あります。学校内で花壇に携わる児童生徒の人数に合わせた適正な面積を考えた花壇作りも必要かと思えます。また、水やり、花摘み、除草などの方法を工夫する必要があります。また、肥料や薬剤などの使用は、児童生徒さんへの安全に配慮しながら行うことが必要です。

③日当たり

一番制約を受けやすい項目だと思います。校舎全体のレイアウトから、花壇を自由に設置できないのが現状かと思えます。これに関してはベストではなくベターな花壇づくりを目指していただければと思います。

④風通し(湿度の管理)

日当たりと同じように制約があるかと思えます。適度な湿度管理で、花をより良い状態に持っていくことが重要です。

⑤水はけのよい土壌

土づくりに尽きるかと思えます。花が生育しやすい環境づくりが大切です。

⑥肥料

生育の鍵を握るのは根の生育だといわれています。生育しないのは根が健全でないためであり、そのために良い土が必要です。経費を抑えるため、堆肥を自分たちで作っている学校もあります。落ち葉や給食などの残飯を肥料化するケースもあります。

学校のFBC花壇

FBC(フラワー・ブラボー・コンクール)

コンクールですので、決められたルールの範囲内で花壇づくりをお願いします。キャラクターの使用は不可です。FBC事務局が提供した種子以外の使用は、審査対象外になります。

①学校のシンボリックな存在

学校の団結など、よりどころとするものになると活かされていくと思います。

②周辺環境との調和

花壇のデザインにあたり、花の色や草丈の差など把握することと、学校全体の緑のバランスに配慮する必要があります。

③デザインの工夫

学校のシンボリックな存在との位置づけから、花壇のデザインは校内の児童生徒さんから募集することが望ましいです。

④総合学習など教材としての活用

単なる花壇づくりにとどまらず、各教科への応用が可能です。例えば発芽率の計算は算数の応用です。美術や国語の作文など他の教科にも活用可能です。児童生徒さんによる地域への花の提供は、なかなか得難い体験になっているかと思います。

⑤学校の規模に合わせた維持と管理

花壇の大きさにより、参加する児童生徒数や学校での取組み体制などを考慮する必要があります。

⑥高価な資材に頼らない育て方

できるだけ手作りの花壇づくりを目指していただければと思います。

⑦除草、病害虫の防除

根気よく手作業で虫の駆除をお願いします。草取りは欠かせません。

⑧校外花壇など地域への貢献

地域の人たちとのつながりは、FBCにとって大切なことです。

花壇管理の方法

除草 …手が届かない場所に注意

花苗の不足がないように

…類似の花で補う(マリーゴールドの代わりにメランポジューム)
FBC事務局から配布の種子以外は使用しない

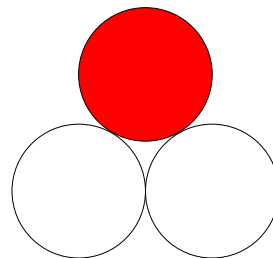
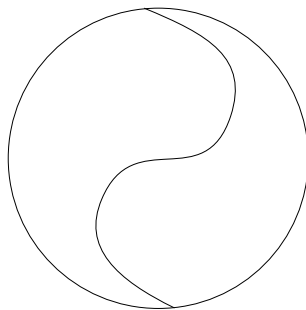
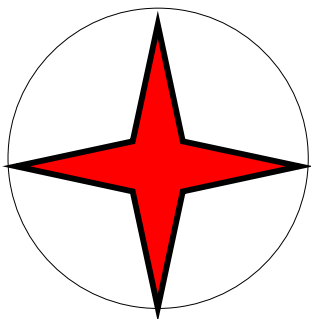
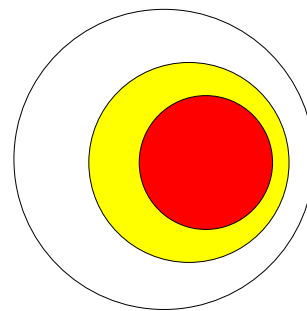
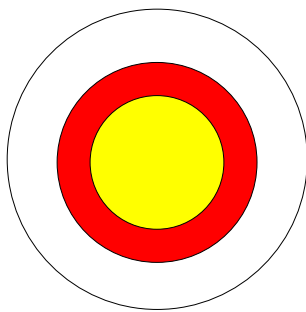
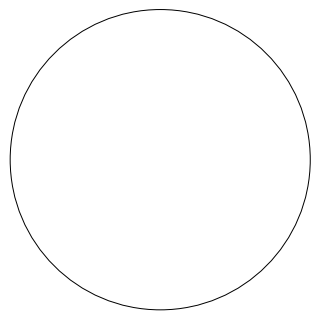
肥料流れを防ぐ

…仕切り板を使う(サルビアは肥料多め、マリーゴールド・は肥料
少なめ)

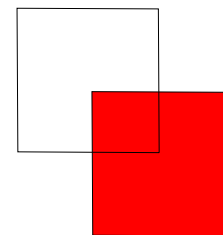
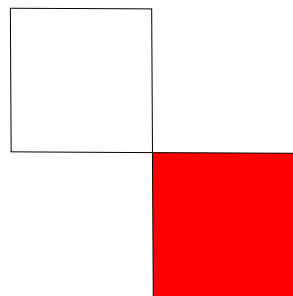
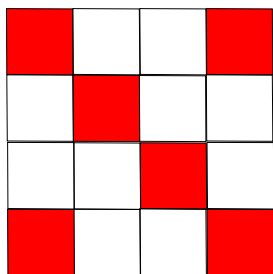
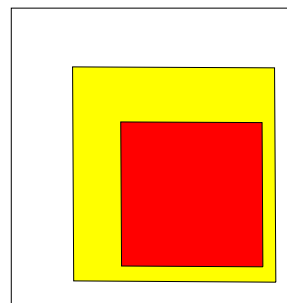
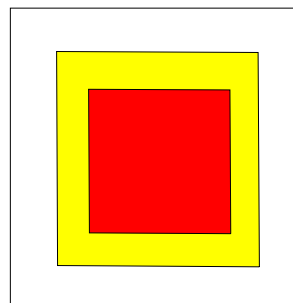
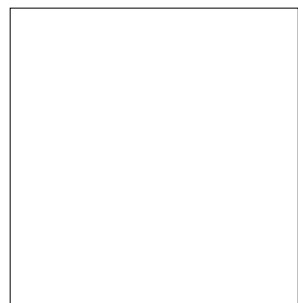
花壇に過度な傾斜や段差は作らない

…花苗の背丈の高低差で立体感を作る(マリーゴールド、
日々草は背丈が低く、サルビア、メランポジュームは
背丈が高い。

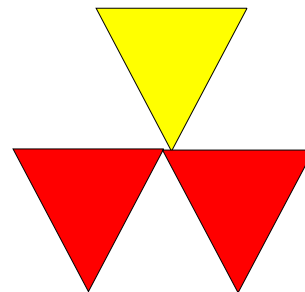
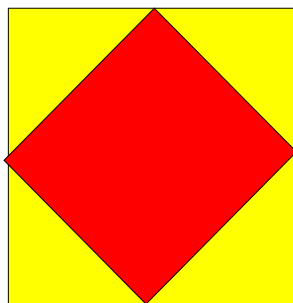
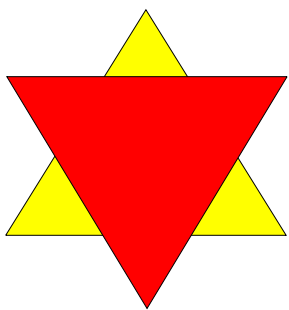
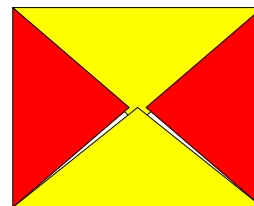
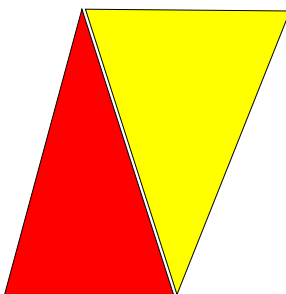
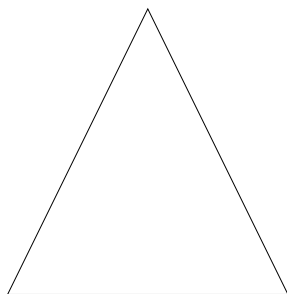
花壇の設計（円形）



花壇の設計（正方形・矩形）



花壇の設計（三角形）



花壇デザインの特徴

①赤サルビアが多いと秋らしい季節感が出る

夏を象徴する色

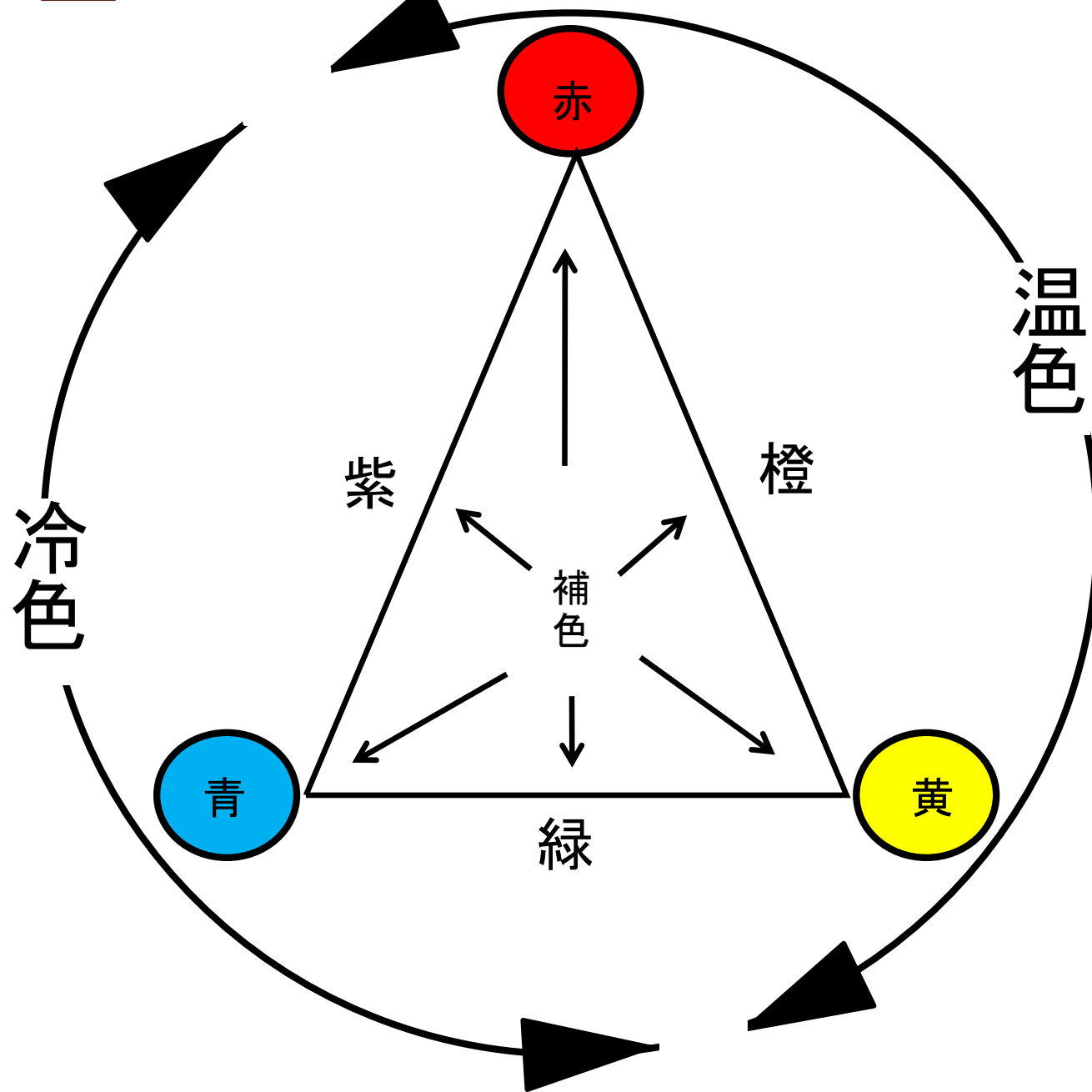
②一目で分かるデザイン(細か過ぎないように)

花の特性が違いすぎるので、デザインは単純化する

③それぞれの花独自の背丈の高低差を利用する

花の特徴と花壇の形状を考えてデザインする

花壇の配色



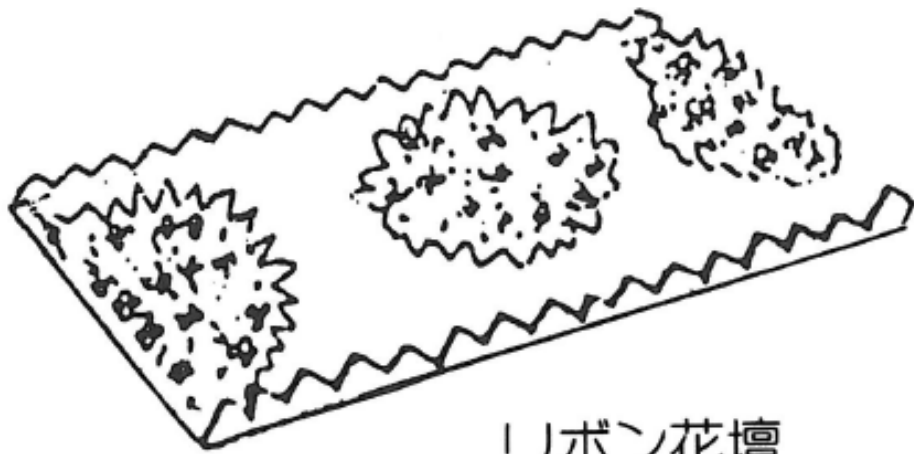
花壇の種類 1



円形の寄せ植え花壇

広い庭に最適。円形では中央の土を高め。また、中央に背の高い花を植え、まわりを囲むように順々に背の低い花をバランスよく植えるとよい。

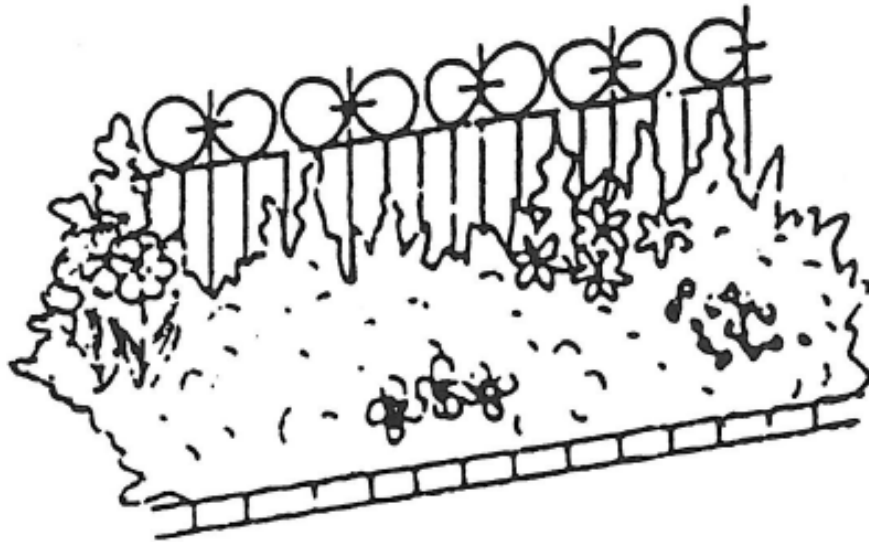
花壇の種類 2



リボン花壇

通路や庭の縁どりは細長くリボンのような形で。花色の鮮やかな1~2種類を使ってシンプルにまとめ、芝生を植えると明るい雰囲気にする。

花壇の種類 3



境栽花壇

窓辺や軒下に、狭い庭なら塀の内側に作るとよい。花がよく見えるように、後ろの盛り土を高くするが、背丈のある花を植え、前に向かって段々に低いものを植えるとよい。

花壇の種類 4

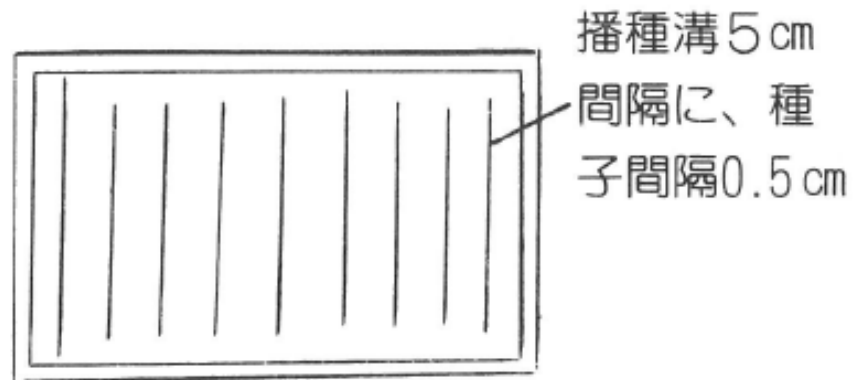


角形の寄せ植え花壇

花色や丈の高低で変化をつけ、
単純な模様を作って楽しみたい。

種子まき（条まき）

条まきと覆土

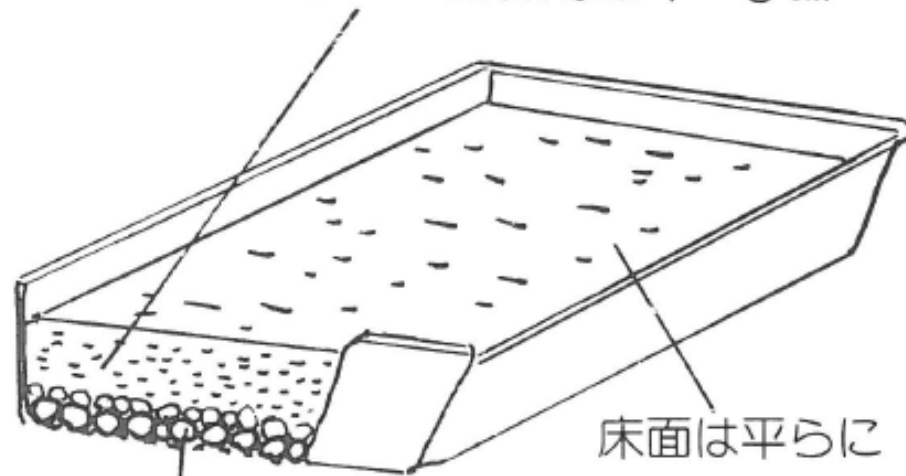


- ・箱まきは生育の早い中粒種子等が適する。
- ・覆土は川砂等の細かい土を2～3mm目のフルイで通し、種子が完全に見えなくなるまで行う

種子まき（箱まき）

箱育苗と土詰め

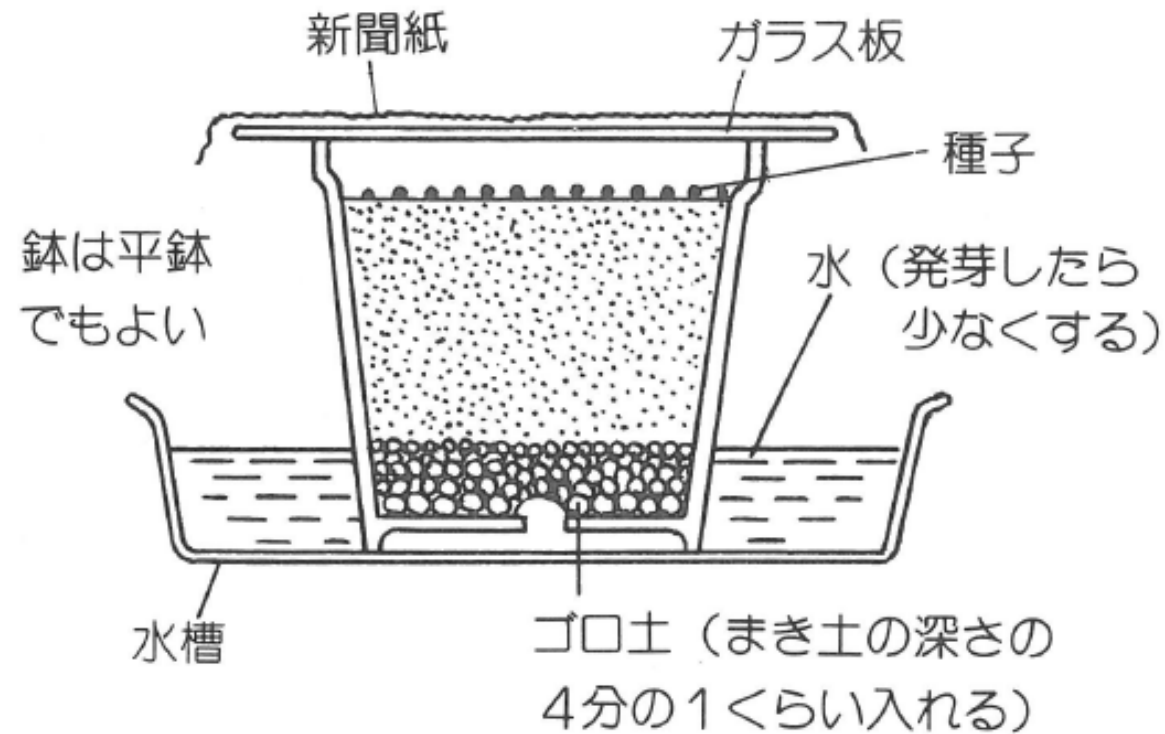
細かい播種用土 4~5 cm



床面は平らに

大粒の培土か
赤玉土のゴロ土 2~3 cm

種子まき（鉢まき）



種子まき（セルトレイ）

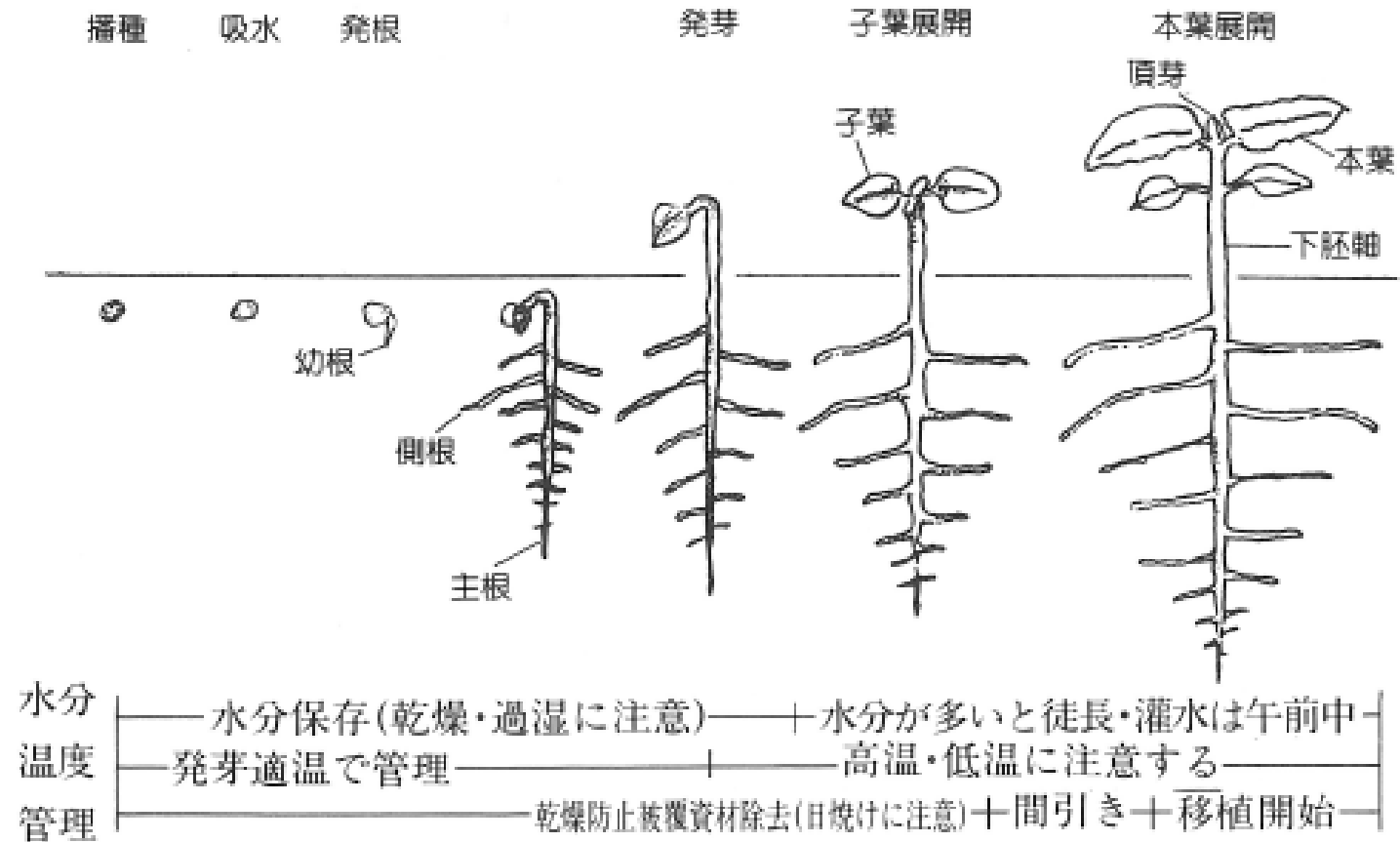


プラグ苗

穴 / 口径mm / 縦 × 横 × 深さmm
50穴 / 44mm / 280 × 545 × 49mm
72穴 / 40.5mm / 280 × 545 × 49mm
128穴 / 28.5mm / 280 × 545 × 44mm
200穴 / 23.5mm / 280 × 545 × 44mm
288穴 / 19.6mm / 280 × 545 × 39mm
406穴 / 15.7mm / 280 × 545 × 25mm

播種から育苗管理

発芽ステージと主な育苗管理のポイント



移植と育苗（ポットへの移植）

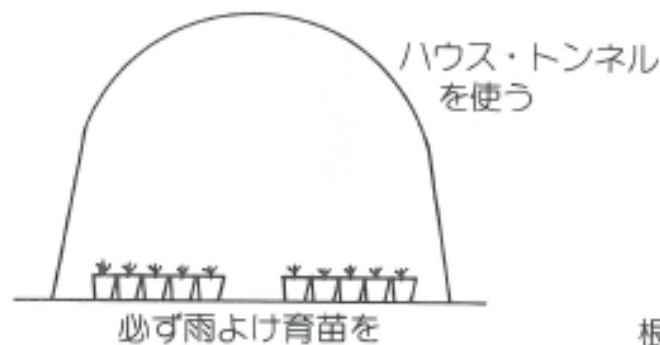


良い苗を選ぶ

用土は7分目

根は広げて植える

- 移植後、底から水が出るまで必ず灌水する
- ポットは育苗箱で管理すれば、運搬に便利



ハウス・トンネルを使う

必ず雨よけ育苗を



根部の状況観察

- 表面の乾き具合でなく、鉢内部の根部の水分状態をみて灌水する
- 生育が不ぞろい場合は、生育のよいグループと悪いグループに分けて管理する
 - ・生育のよいとき——通常の灌水を
 - ・生育の悪いとき——灌水量の調節を

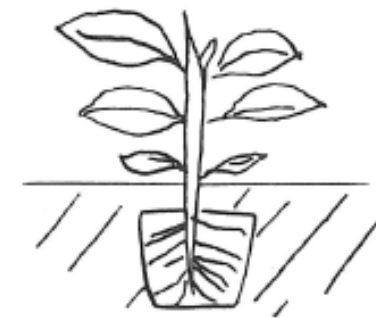
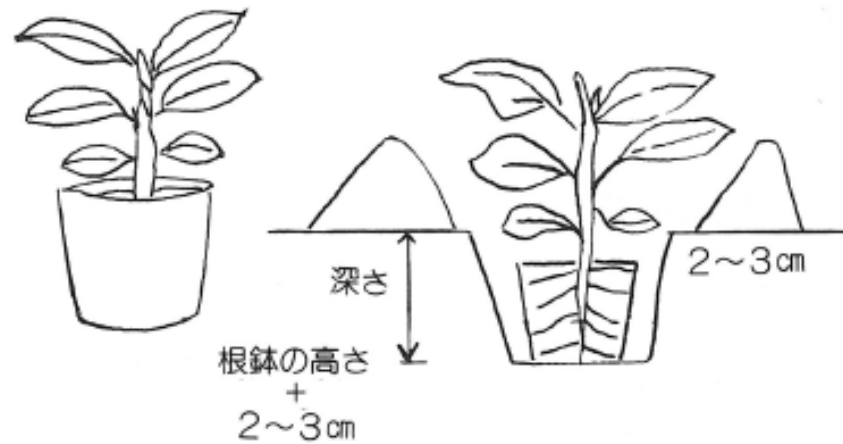
●ポット育苗では灌水管理が最も大切である

ポット苗の定植

ポット苗は根鉢をくずさない
ようにポットをはずす

植える深さに注意

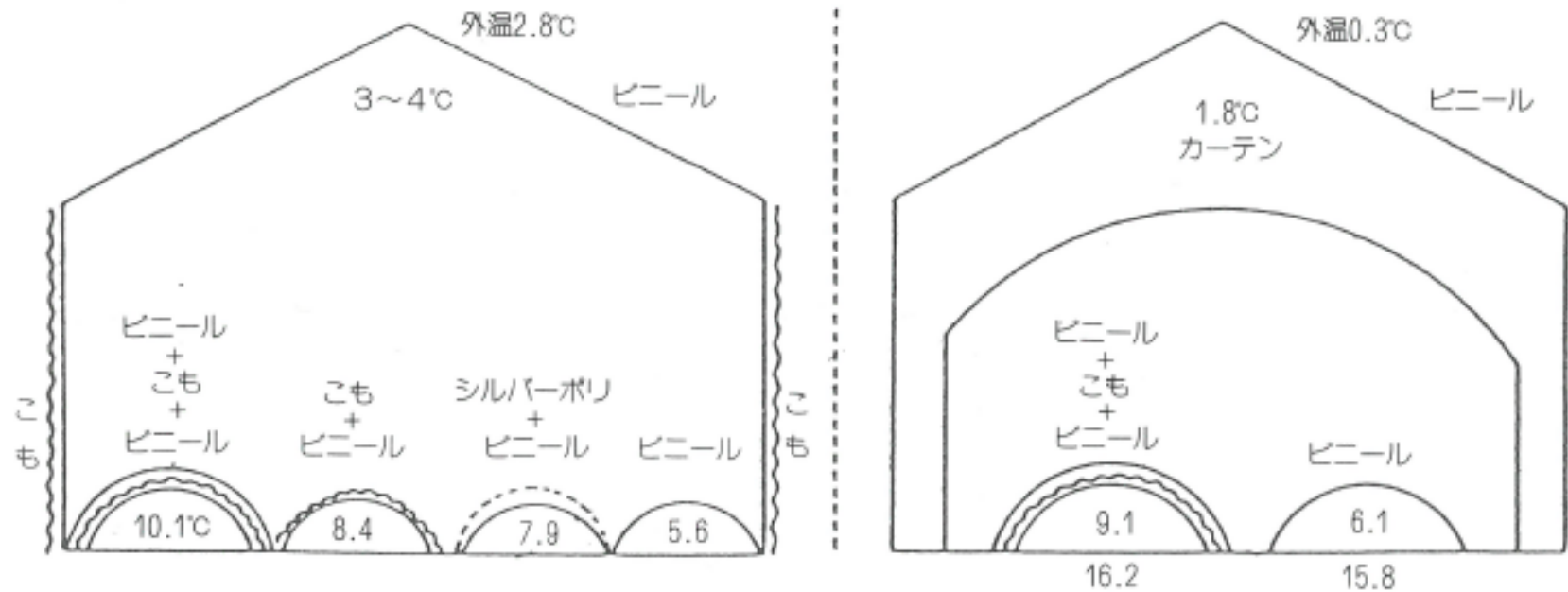
定植後は軽く土をおさえて
灌水をおこなう



※徒長した苗には支柱を立てる

被覆による保温効果

被覆による保温効果(事例)

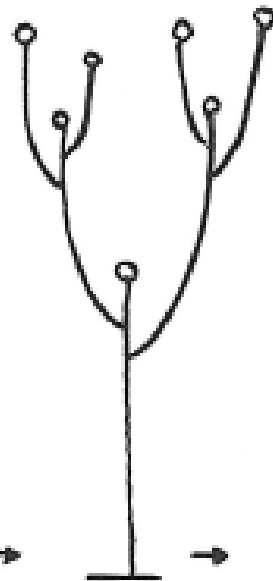


摘心の方法 1

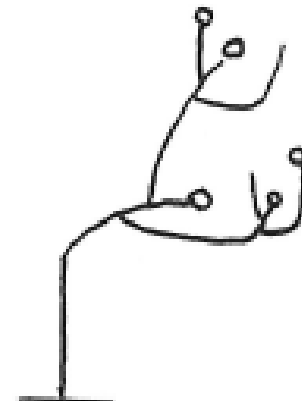
摘心しない



早く咲く花を
摘心しないで
いると



伸びて咲いた花のわ
きからわき葉が伸び
出して咲くのでま
す高くなる

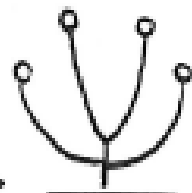


高いと風にゆれ、
花付きが少ない

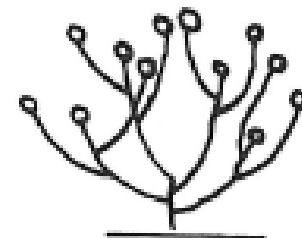
摘心する



思いきって
摘心すると、



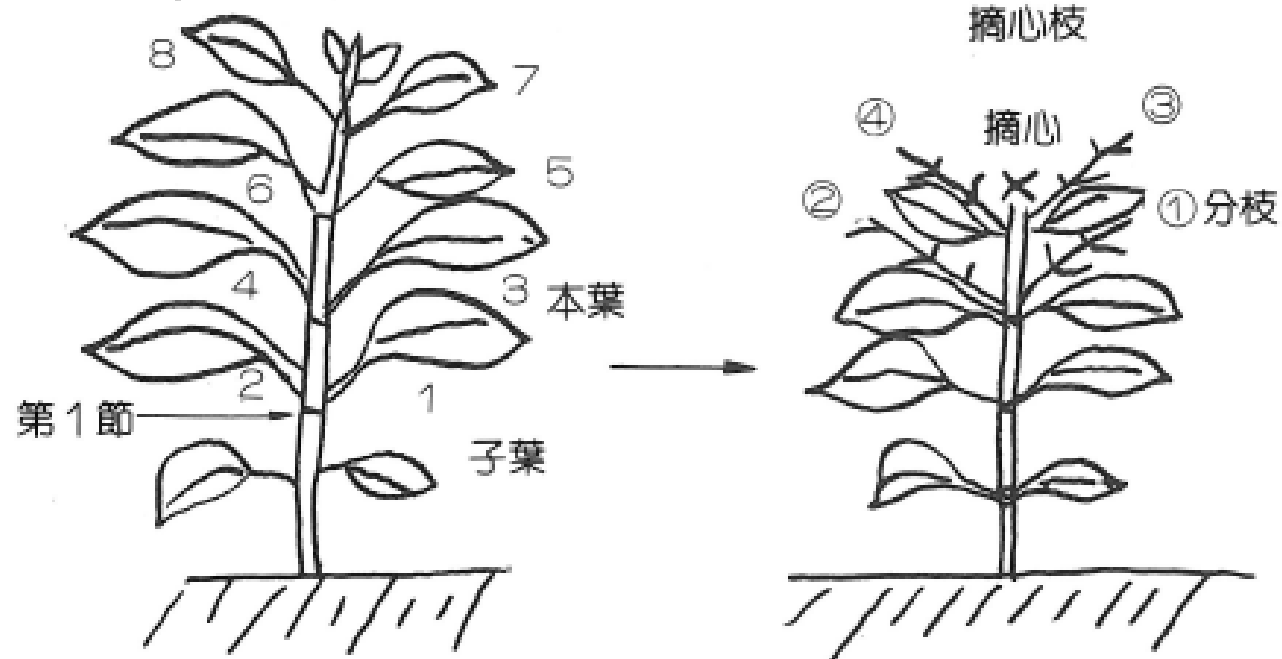
摘んだまわりから
わき葉がたくさん
出る



低く数多い花が程
よく咲いてくれる

摘心の方法 2

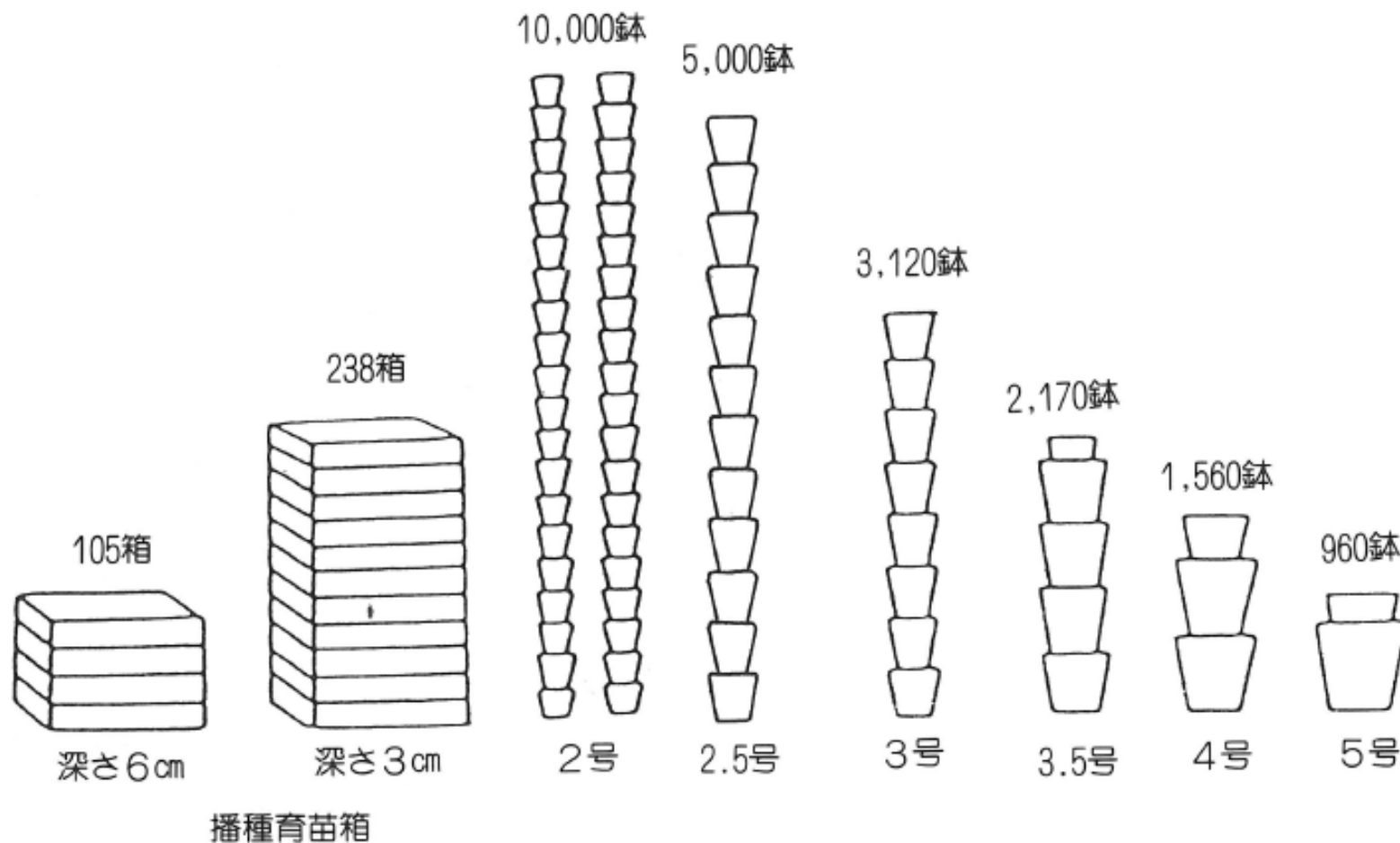
サルビアは本葉 8枚(4節)で摘心



新芽を殖やし、こんもり育てる

- サルビア……………本葉 8~10枚、摘心 数本の側枝
- マリーゴールド……………草丈10cm 摘心 側枝
- アゲラタム……………本葉 3~4枚摘心

床土1m²で作れる育苗容器の数



Webサイト

<https://chunichi-event-han.jp/fbc/>

課題種子の育て方や過去の入賞校など紹介

